

学校という恩恵

僕はこの大学受験で奈良女子大附属の利点を大いに活用した。受験を通して感じたこの学校の強みについて話そうと思う。

一つ目は6年間で得た友人、そして先輩、後輩である。大学受験は団体戦とはよく言うが本当にその通りだと思う。お昼休みもたくさん喋って、勉強に疲れたらみんなでお菓子を食べながらワイワイしていたことが、長い受験シーズンを乗り切るための最大の息抜き

だった。それに、一人では続かない勉強も友達と一緒に勉強したら不思議と長続きする。だから放課後はみんなを誘って一緒に勉強していた。6年生の5月に部活を引退してからも、大学に行った先輩に大学について教えてもらったり、後輩から励まされたりした。成績が伸び悩んでいるときも、模試で悪い結果をとった時も、悲観的になっていては勉強のモチベーションが続かない。そして、プレッシャーや不安の波に飲み込まれそうになった時、自分一人でその

気持ちを消化することは難しい。けれども周りとの関わりの中でなら自分を再び奮い立たせることができる。僕は同級生や部活の先輩や後輩には本当に助けられた。

二つ目は勉強のできる環境だ。学校で勉強するなら授業の終わった教室、自習室、ライブラリーなど多くの選択肢がある。僕は家ではあまり集中できず長続きしなかったなので、できるだけ学校にいるようにした。わからないところは一緒に勉強している友達や先生に聞けるし、そして何より快適だっ

た。塾には行っていなかったので、学校が閉まっているときは近所の図書館などに行って勉強していた。別に学校である必要はないが、勉強のはかどる環境を確保することは合格には不可欠だ。そして私たちには学校という場所が保証されている。場所を変えると気分も変わるので、普段学校を利用していない人も身が入らないときは学校で勉強してみてもどうだろうか。

そして最後に忘れてはならないのが先生方の厚いサポートだ。僕

は受験勉強を始めたのが遅かったため、このままで大丈夫だろうかという不安は常にあった。でも、いっばいやらなくてはいけないことがあった時こそ、学校の勉強を大事にした。そうすることで地に足の着いた勉強ができて確実にステップアップできたと思う。また、放課後に先生方が開いてくださった入試対策の講座には積極的に参加した。授業よりも難易度の高い問題に取り組むことができ、入試で闘う力がついた。質問には丁寧に答えてくださったし、問題の

解き方から勉強方法まで多くのことを教わった。医学部の志望理由書の添削や記述問題の添削もしていただいた。

当たり前のように思うかもしれないが、この学校の生徒は勉強することにおいてとても恵まれていると思う。だからその恩恵に感謝し、活用していかなくてはもったいない。そして、間違っても自分ができなかつたときにその環境のせいにはいけない。そうやって、責任転嫁していても何も前進しないからだ。受験を終えてこ

の当たり前のように勉強できる環境のありがたみを痛感した。だからぜひとも後輩たちにはその恩恵に気づいて感謝し、活用することで合格を勝ち取ってもらいたい。